

人権週間記念講演会

小郡市では、毎年12月4日～10日の人権週間に記念講演会を開催しています。今年は、10日(土)に文化会館大ホールで開催しました。

小郡高校の生徒お二人の司会のもと、講演の前に市内の小中学生4人による人権作文の朗読が行われました。

発表者は、「うわき話や、思い込みによる決めつけのおかしさ」や、「良い所を見つける、見つけてもらうことのうれしさ」、「共感し、共に考えてくれた人たちへの感謝」、「人のつながりや支え合うことの大切さ」などについて訴え、参加者の心に感銘を与えました。



失って見えてきたもの

大切な人の喜ぶことを

今回の講演会は、詩人で画家の大野勝彦さんによる、「失って見えてきたもの」大切な人の喜ぶことを」と題しての講演でした。

大野さんは、45歳の時に農作業中、機械により両手を切断されました。その後、生きることの「喜び」や「すばらしさ」を、詩や水墨画で表現しながら伝え続けておられます。

大野さんの絵や詩からは、ほのぼのとした温かさを感じます。講演の中では、「人の優しさが身にしみ、そして優しさになる」と言われていましたが、家族、特にお母さんへの感謝の思いを強く語られていました。

以前は家族に対しても「我がまま」



だったけれど、両手を失ったことにより「人の優しさ」や「家族の温かさ」を改めて強く感じ、そこから本当の人生が始まったような気がするとのことでした。

現在、用途に合わせて20数本の義手を使いながら、車の運転をはじめ、何でも自分でできます。でも服のボタンを留める時など、どうしても自分で出れない時は、「素直に人にお願いします」と笑顔で話されていました。

最後に、「笑顔いちばん やさしさ いちばん 父ちゃん母ちゃん、そしてあなたのお陰だよ」という書をしたためられ、講演を終えられました。

書は人権センターに掲示しています。



大野さんの作品は、『風の丘 阿蘇 大野勝彦美術館』『風の丘 飯田高原 大野勝彦美術館』にて展示・販売されています。

アンケートの一部をご紹介します

○4名の子どもの作文発表がとても良かった。素直な心で人権問題を受け止めている様子を大変うれしく思いました。

○ついつい忙しさや、面倒くささから流されて生きている。本当の生き方を見つめ直すいいお話でした。

○本当に勉強になり、元気をいただきました。私もいつ障害を背負うことになるかわかりません。他人事としてじゃなく、自分のこととして考えながら、いろんな人に私たちは支えられて生きている事を再確認させられました。

○本気で書かれた言葉だからこそ、心に響くんだなと改めて思いました。思っているばかりでは気持ちには伝わらない…。今の私は自分の思いをきちんと伝えられているだろうか…。親への気持ちは特に言葉にできないような気がします。これから素直に伝えたいと思います。

●問い合わせ先

人権・同和対策課

☎72・2111 内線432